審議会会議録

1　会議の名称	平成２３年度富津市要保護児童対策地域協議会代表者会議
2　開催日時	平成２３年６月２９日 午後３時００分～午後４時３０分
3　開催場所	富津市役所５０３会議室
4　審議等事項	富津市における児童虐待の現況について 講演　児童養護施設の現状について
5　出席者名	本多泉代理、内本美鈴、飯田貞之代理、戸波宏幸、横浜敬子代理、田中計、岩波正弥、鳥飼登美子、牟田智嗣、青木和彦、長谷川令子、藤平則夫、川田卓也、吉原賢一、鈴木康夫 事務局　小野田隆博、渡邉博徳社会福祉主事
6　公開又は非公開の別	公開　・　~~一部非公開~~　・　~~非公開~~
7　非公開の理由	富津市情報公開条例第２３条第　　号に該当 （理由）
8　傍聴人数	０　人（定員５人）
9　所管課	健康福祉部児童家庭課児童家庭係 電話　０４３９－８０－１２５６
10　会議録（発言の内容）	別紙のとおり

平成２３年度富津市要保護児童対策地域協議会代表者会議録

発言者	発言内容
事務局	・開会の挨拶 ・会議公開について ・資料の確認
吉原会長	・会長挨拶 ・委員の自己紹介
事務局	議事の進行につきましては、吉原会長にお願いいたします。
吉原会長	議事に入る前に、本日の会議録署名人についてですが、署名人の選任については、私に一任ということでよろしいでしょうか。
全委員	異議なし
吉原会長	本日の署名人については、田中計委員、岩波正弥委員にお願いします。
両委員	わかりました。
	議事進行 富津市における児童虐待の現況について 事務局による資料の説明
吉原会長	事務局の説明に対し、質問等はございますか。
内本委員	平成２２年度の受付件数は、全て新規件数でしょうか。
事務局	はい。全て新規件数です。
内本委員	それでは、継続しているケースは他にあるわけですね。

事務局	この新規ケースを含めて、２か月に一回の実務者会議を開催しておりまして、そこで扱っているケースとして、市のケースとして９件、君津児童相談所の富津市のケースとして１５件ございます。
吉原会長	資料から富津市の状況として、ネグレクトが一番多く、富津市の特徴を示していているのかと思います。
本多代理委員	虐待相談件数が昨年度１７件と平成１９年度から横ばい状態が続いており、今年度も同様の件数になると考えていらっしゃる人もいるかと思いますが、君津児童相談所で受けている富津市の件数は昨日までで９件となっています。３か月で９件ですので、単純計算では年間３６件となります。近隣市でも件数は増加しており現状で、全国的にも増加傾向にあります。そのひとつの要因として、一般の人の虐待に対しての認識ができていることだと思います。虐待とはどんなものか、虐待が発生した時はどうしたらよいかという意識が高くなってきているということです。また、それを受ける機関の意識も高くなっていると思います。 ただ、最近の件数の推移と人口規模からすると富津市の件数は少ないと思います。これは、富津市は平和であると言えますが、それに結論づけてしまうことは早いかなと思います。人口規模から考えるともう少し多い傾向にありますので、件数が増えるまえに虐待を受ける体制をしっかりと整える必要があると思います。実務者会議を２か月に１回やっていて、体制は整備されていると思いますが、それは昨年度１７件の対応だと思います。近隣市は１００件以上の市もあり、昨年度より増加しています。君津児童相談所での相談等の件数が昨日までで１０１件と昨年度が３０４件ですので、今年度は４００件を超えるのではないかと思います。 これは、富津市においても同様に推移していくのではと思いますので、数字に楽観してはいけないと思います。富津市に

	おいても危機感を持って体制づくりを進めていただきたいと思います。
吉原会長	こうしたことは、何かあってから対応するというのでは、遅いと思いますので、虐待の通報等を受ける体制ができているということが認知されていれば動きやすくなり、また、数字も上がってくると思います。こういった意味では、数字が上がるのは悪いことではないと思います。 また、新聞報道などでは、「あのとき気づいていれば」や「認識がなかった」や緊急性が感じなかったなどと報道されています。今回の事例のなかでも「育児の心配はない。家族とも関係は良好で、子どもとも外出している。」とありますが、これをどう受け取るかだと思います。「育児の心配がある。家族とは関係が悪く、子どもとも外出していない。」と言える親はいないのではないかと思います。心配ないという言葉を自分の中で正当化してしまうと感度の甘さ、事態の把握ができない、そして、その後の対応ができなくなってしまって、ケースに対する評価が下がってしまい、結局虐待が進んでしまうと思います。
鳥飼副会長	去年１７件の件数があったとのことですが、主任児童委員は６名いますが、誰も聞いていないし、動いていなかったと思います。１件の児童虐待の例は、長い時間がかかると思います。家庭訪問も頻繁に行わなければいけない場合もあると思います。そうした時は、地域の主任児童委員や民生委員にもできることがあると思いますので、どんどん使っていただきたいと思います。
事務局 横浜代理委員	ありがとうございます。 君津ふくしネットは中核地域生活支援センターで君津圏域の総合福祉相談を行っていますが、他市に比べ、富津市は相談件数が少ないと思います。恐らくどこかに相談できることを知らない、相談するケースなのかわかっていないなどのこ

	とが市民に浸透していないのではないかと思います。児童虐待についても同様にこういうケースは通報をするとか相談する窓口についてなどのことについて、啓発活動を行っていただければと思います。 　近隣市では、重大なケースでなくても気になるので見てきて欲しいという連絡が入りますので、付近の巡回などを行った結果、児童相談所や市役所へつながるケースもあります。そのように市民の意識も高まっているように感じられます。富津市においても市民の意識が高まれば相談が上がってくるのではないかと思いました。
吉原会長	周知活動について、事務局はどう考えていますか。
事務局	周知活動としては、国のポスターやパンフレット等を活用して行っています。今後も主任児童委員や民生委員の方に情報提供を行い、何かあった時には民生委員などの方々に相談すれば、市や児童相談所につながるということを伝えていければと思っています。
吉原会長	まず、第一報は、隣近所だと思います。泣き声がする、いつも決まった時間帯に大人の声がして、その後に子どもの泣き声がする、子どもの痣をみるなどの状態がわかるのは近所の人だと思います。地域で活動している人も大事だと思いますが、まずは、まわりの住民がどれだけ認識するかが大事だと思いますので、市民を対象に積極的に広報してもらいたいと思います。
戸波委員	児童養護施設から見ると、今回報告のあった事例はすでに緊急性があると思います。痣が見つかったとか大きな声が聞こえるなどの生命の危険を感じるから緊急性があるからではなくて、少しでも通常よりズレ始めたら、緊急性があると思って見守り始めないと手遅れになると思います。 地域の民生委員さん達を使って、毎日顔を出させるようにするなどのチェックポイントを設けて対応しないとその時に緊

吉原会長	急性が無かったものが、３日後に緊急性を通り超えて大変な事態になるということはあると思いますので、対応にもっと緊張感があってもいいかなと思いました。 　色々な事件で緊急性を把握出来なかったと言われていますが、緊急性をどう判断するか、また、どう動くかによって、その時の状況を大きく変えますので、市の方でもそういった体制づくりをしてもらいたいと思います。 　他に意見がなければ議題については、以上で終了いたします。 　休憩 　講演 　児童養護施設の現状について 　社会福祉法人　ミッドナイト・ミッションのぞみ会 　児童養護施設望みの門かずさの里　施設長　戸波　宏幸氏 　閉会